

# 齋藤均

黒松内町ブナセンター職員  
さいとう ひとし



Hitoshi Saitou



## 自然と人のあいだを、 縦横無尽にゆく森の案内人。

### 北限のブナ林

かんじきを履いて  
冬のブナ林をゆく

「冬のブナ林が好きなんですよね。足跡のない雪の上を、かんじきで歩きながら、齋藤均氏はゆつくりと話す。「葉がぜんぶ落ちていくから、空がよく見えるでしょ。月や星がきれいな夜もいいですよ」。時には立ち止まり、冬芽や鳥の鳴き声について丁寧に説明してくれる。「ここは尻滑りで行きますから」。穏やかな口調だが、有無を言わずワイルドな体験もさせてくれる。久しぶりに雪まみれになって見上げた空は、ブナの白い枝と相まって本当にきれいだった。

「実は夏でもぼつかりと空が見える場所があるんです」。2004年9月、北海道を襲った台風18号が推定樹齢300〜500年のミズナラの大木を倒したのだ。「黒松内小学校の2年生の子どもたちがこの倒れた木を見に来たので、差し込む光がまた若い木を育てるんだよって教えたいんです」。その後、子どもたちはミズナラの大木のために劇を作った。「劇の中で『こんなに空は青かったんだね』というセリフがあつて。子どもたちが森の動物の気持ちになりきれたからこそできたセリフだと思つて、もう感動して涙が出そうになりましたよ」